

株式会社ユーグレナ

当社の事業概要及び 2015年9月期決算説明

2015年11月

【免責事項】

本資料に記載されている予測、見通し、戦略およびその他歴史的事実ではないものは、当グループが資料作成時点で入手可能な情報を基としており、その情報の正確性を保証するものではありません
これらは経済環境、経営環境の変動などにより、予想と大きく異なる可能性があります



株式会社ユーグレナの会社紹介



株式会社ユーグレナとは

2005年12月に**世界で初めて**微細藻類ユーグレナの
屋外大量培養に成功した東京大学発ベンチャー企業。

未だ、**世界で唯一**、ユーグレナの
商業大量培養を実施している企業。

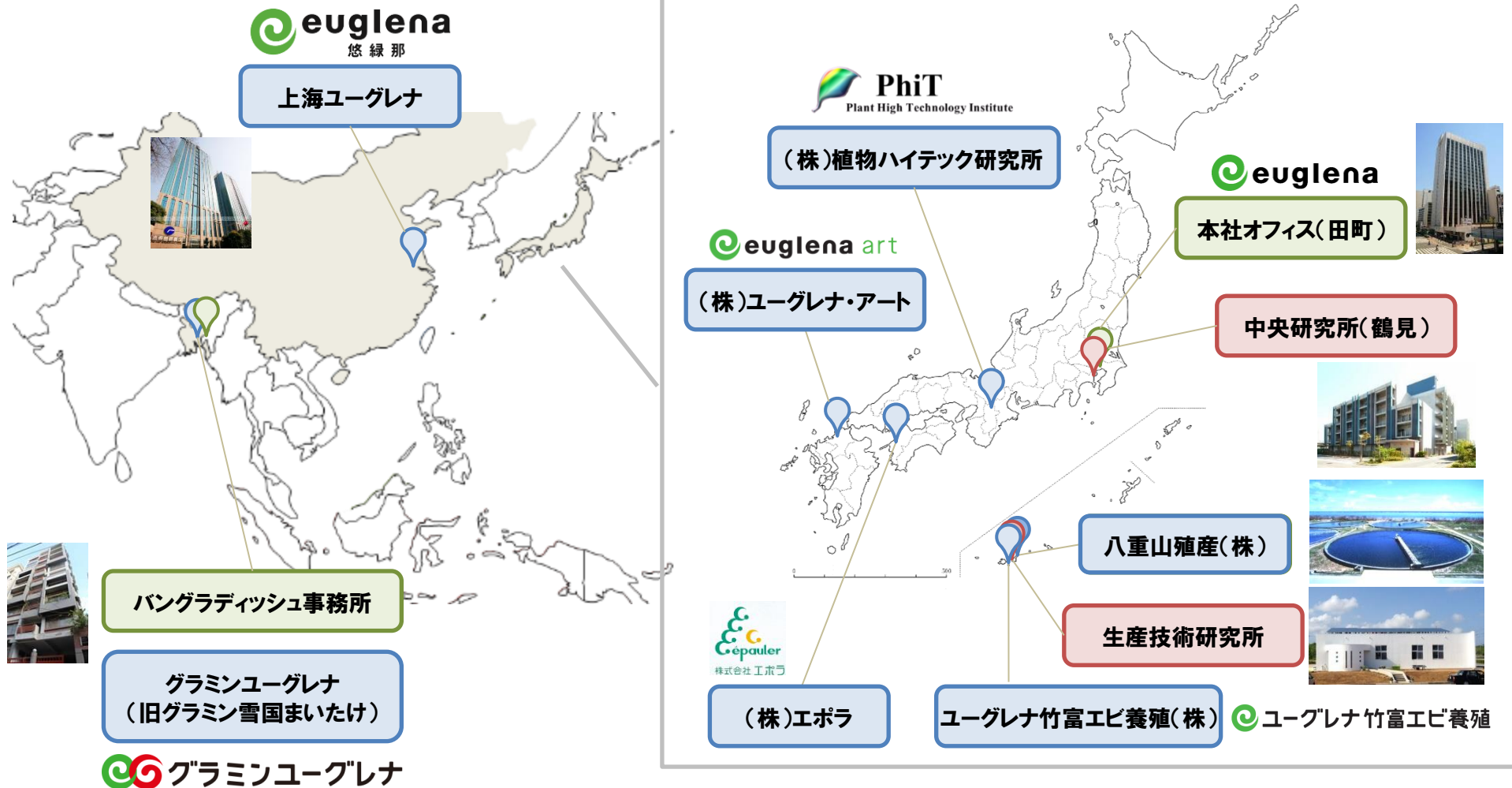
会社概要

設立	2005年8月9日	
本店	東京都港区芝5-33-1	
資本金	48億2,634万円	2015年9月末
売上高	59億2,435万円	2015年9月期
従業員数 ^(*)	単体 97名 / 連結 190名	2015年9月末
経営理念	人と地球を健康にする	
経営 ビジョン	バイオテクノロジーで、昨日の不可能を今日可能にする	
上場市場	東京証券取引所市場第一部	
証券コード	2931	
単元株	100株	

(※): 契約社員及びアルバイトスタッフを含む

拠点・グループ会社

クルマエビ養殖会社の竹富エビ養殖が当社グループに参画 (2015年9月)



注: 緑色が当社事業拠点、赤色が当社研究拠点、青色が当社グループ会社拠点

ベンチャー企業としての高い評価

2015年1月、経済産業省「第1回日本ベンチャー大賞」にて
最優秀賞である「内閣総理大臣賞(日本ベンチャー大賞)」を受賞



創業ストーリー

ユーグレナ研究のきっかけ

Q: 私たちは、何故ユーグレナの研究、事業化を目指したのか

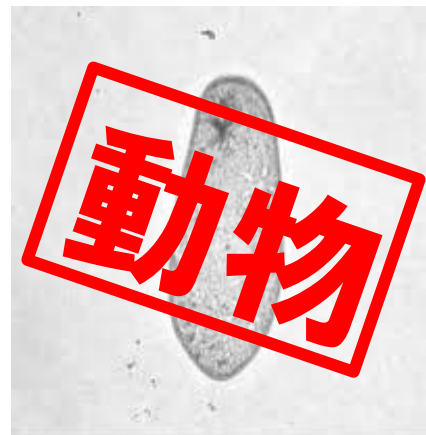
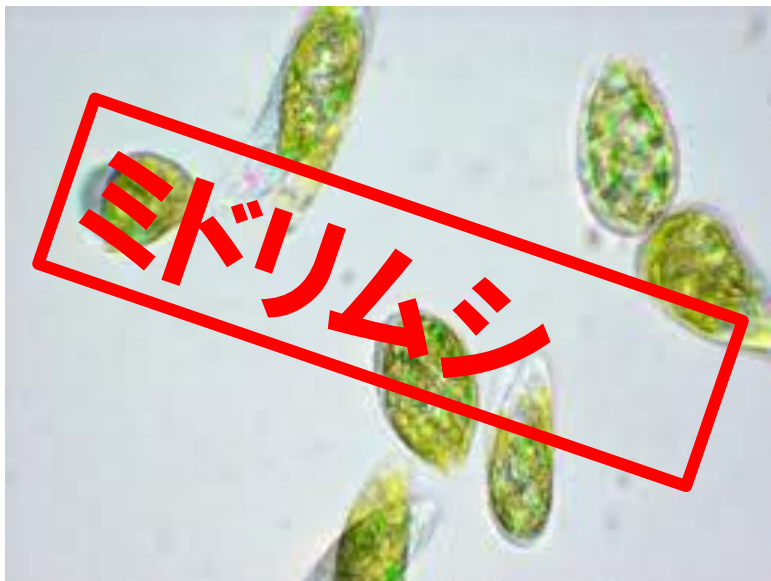


**A: 社長である出雲が大学時代に行ったバングラデシュにて
栄養失調の問題を目の当たりにし、それを解決するために
栄養豊富な食料を作ろうと考えたため**

微細藻類ユーグレナとは



微細藻類ユーグレナとは



微細藻類ユーグレナとは

300
~
500 cm



ワカメ

ミドリムシは虫ではなく
昆布やワカメの仲間
藻の一種!



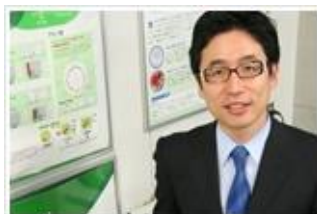
ミドリムシ

世界初、ユーグレナの大量培養技術の確立

2005年12月に世界で初めて、東京大学を中心とした藻類研究を実施する大学と連携し、ユーグレナの大量培養の技術の確立に成功



研究開発 @ 東京大学



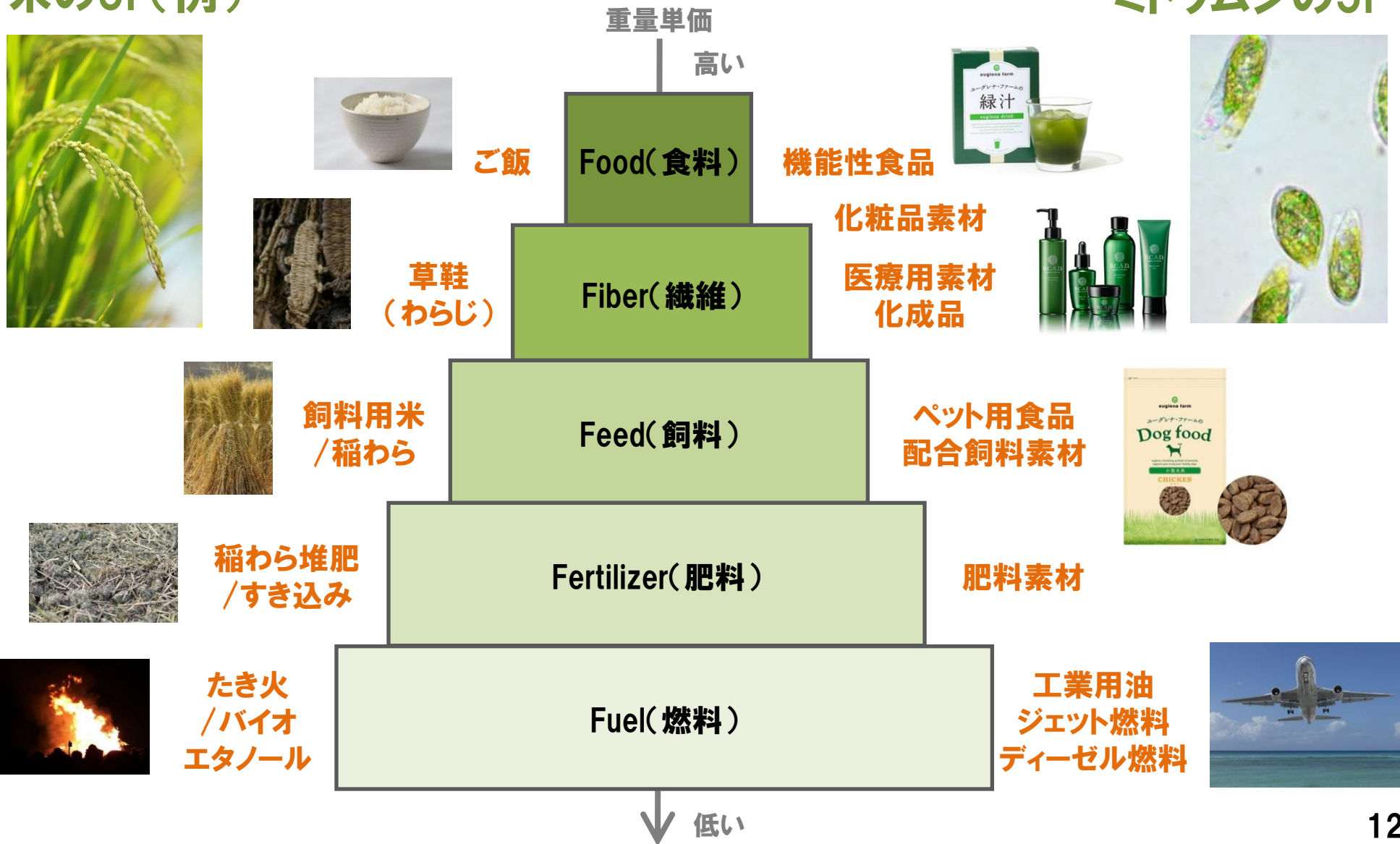
東京大学農学部
創業メンバー



2005年当時の設備(現在は違う設備)
実証 @ 沖縄県石垣島

基本戦略ーバイオマスの5F

米の5F(例)



足元の収益成長 ヘルスケア事業

ユーグレナ食品の強み－栄養素

59種類の栄養成分

《ビタミン》

α-カロテン ビタミンD
 β-カロテン ビタミンE
 ビタミンB1 ビタミンK1
 ビタミンB2 葉酸
 ビタミンB6 ナイアシン
 ビタミンB12 パントテン酸
 ビタミンC ビオチン

《ミネラル》

亜鉛
 リン
 カルシウム
 マグネシウム
 ナトリウム
 カリウム
 鉄
 マンガン
 銅

《アミノ酸》

バリン
 ロイシン
 イソロイシン
 アラニン
 アルギニン
 リジン
 アスパラギン酸
 グルタミン酸
 プロリン

スレオニン
 メチオニン
 フェニルアラニン
 ヒスチジン
 チロシン
 トリプトファン
 グリシン
 セリン
 シスチン

《その他》

β-グルカン
 (パラミロン)
 クロロフィル
 ルテイン
 ゼアキサンチン
 GABA
 スペルミジン
 プトレッシン

《不飽和脂肪酸》

DHA
 EPA
 パルミトレイン酸
 オレイン酸
 リノール酸
 リノレン酸
 エイコサジエン酸
 ジホモγ-リノレン酸
 アラキドン酸
 ドコサテトラエン酸
 ドコサペンタエン酸

分析元：財団法人 日本食品分析センター



写真：ユーグレナ粉末

※左記の写真はイメージ

ユーグレナ食品の強みーパラミロン

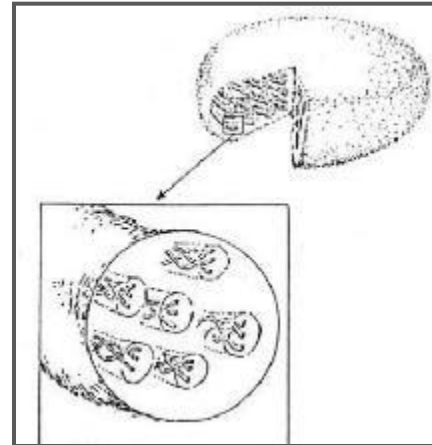
パラミロンはミドリムシしか持っていない食物繊維の一種です

吸油性に優れており難消化性であるため、吸収されずそのまま外へ排出されます

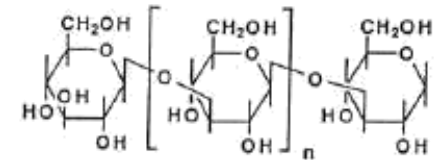
パラミロンがもつ効能もユーグレナの食品としての特徴です



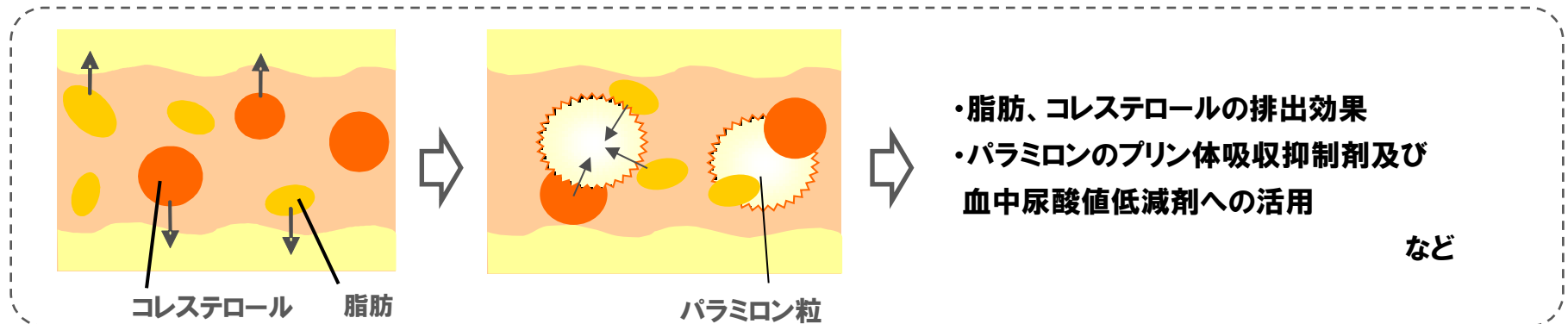
撮影：青山学院大学 福岡伸一教授



▲パラミロンの粒子構造
(Marchessault and Deslandes, 1979 より引用)



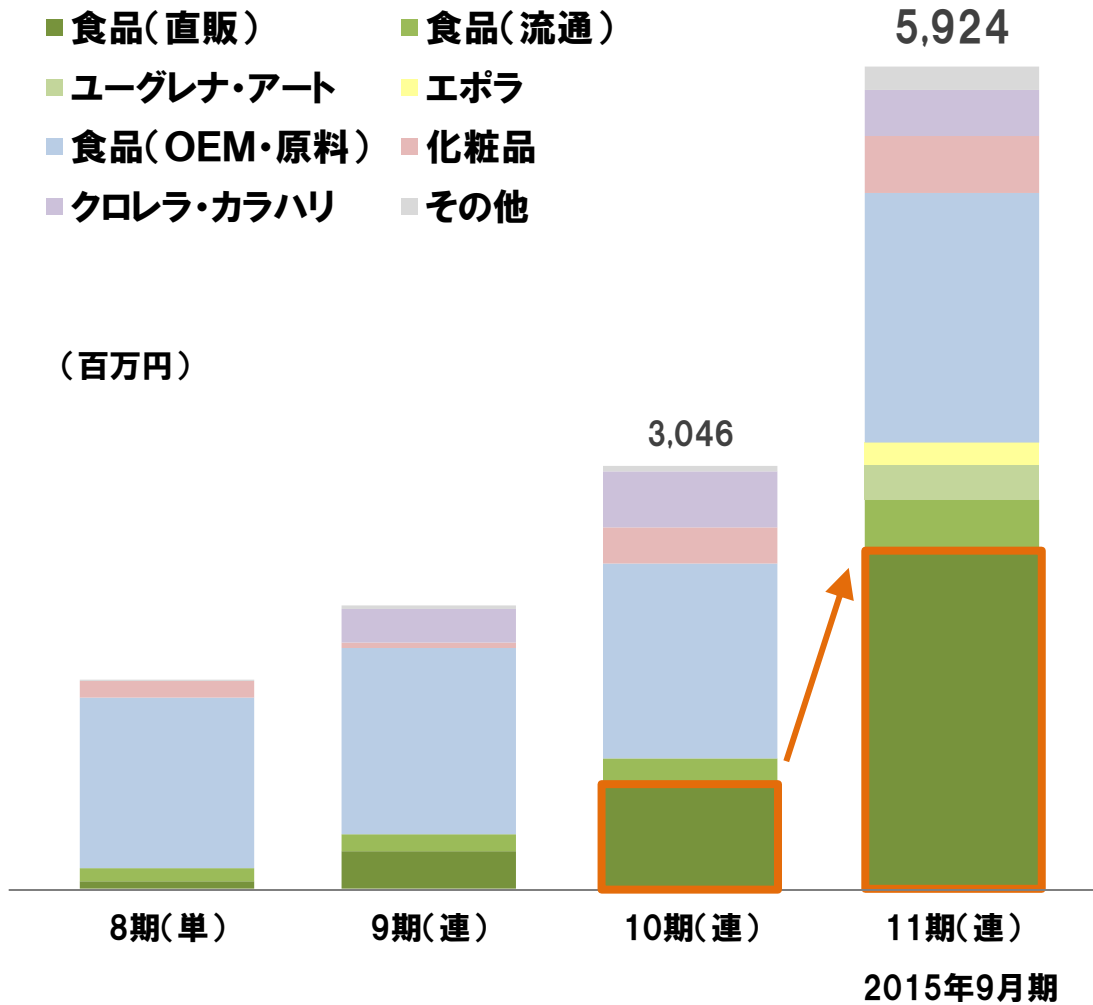
▲パラミロンの構造



業績推移－売上高の内訳

- 食品(直販)
- 食品(流通)
- ユーグレナ・アート
- エポラ
- 食品(OEM・原料)
- 化粧品
- クロレラ・カラハリ
- その他

(百万円)



連結売上高は
前期比 **2倍**

食品(直販)売上高は
前期比 **3倍**

粗利率

54%

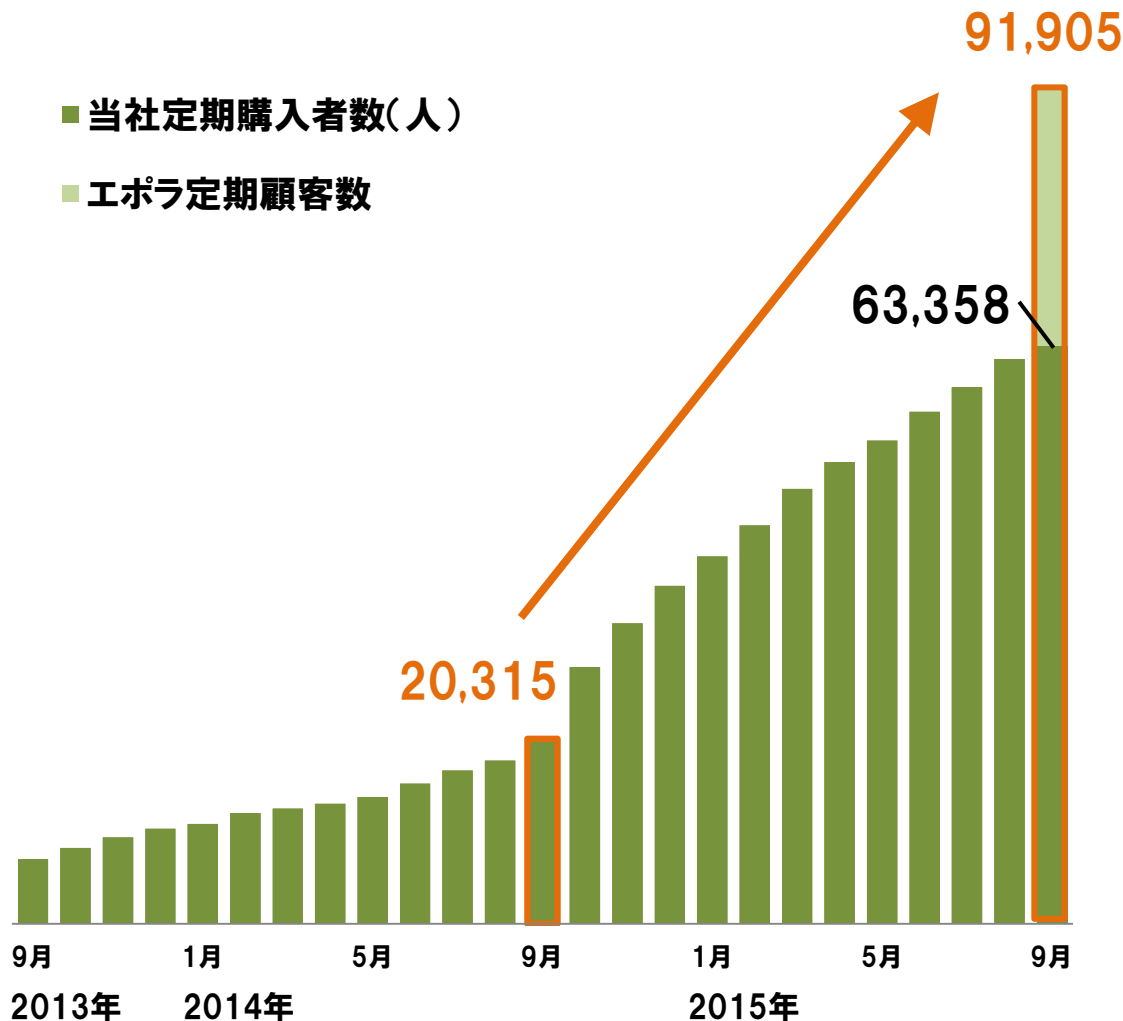
61%

68%



食品(直販)→直販顧客数推移(2015年9月)

- 当社定期購入者数(人)
- エポラ定期顧客数



グループ定期
購入者数は
9.2万人に増加



注: 購入者数は「緑汁」と「ユーグレナ・プラス」が対象で、化粧品「B.C.A.D.」は含みません

2015年7月より購入者数の算出を速報値ベースから確定値ベースに変更し、過去データに遡って修正しております

食品(自社流通・コラボ商品) —商品ラインナップとコラボ先の拡充

自社ブランド飲料商品「飲むユーグレナ/ミドリムシ」の売上拡大に加えて、商品ラインアップやコラボ商品の拡充にも注力

飲むユーグレナ(東日本)
/ミドリムシ(西日本)



成城石井、ナチュラルローソン、北野エースなどの高級スーパーをはじめとして累計180社以上の企業で取扱

赤汁・緑汁



フルッタフルッタとの共同企画開発商品
販売ルートにおいてお互いの強みを活かし、
通販チャンネルとスーパーマーケット・コンビニで展開

石垣島のクロレラ汁



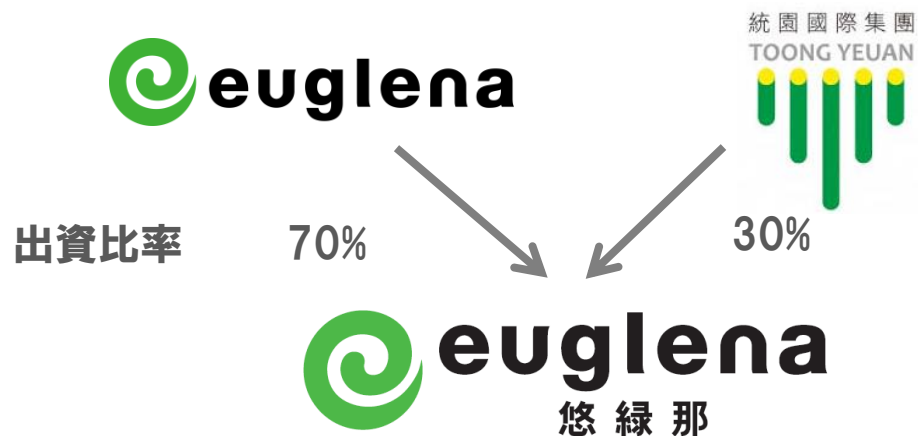
クロレラの自社商品を発売
ダイエー、ビックカメラなど
100店舗以上にて販売、販路を拡大中

石垣産ユーグレナ×
みやざきビタミンゴーヤー



ユーグレナを使用した生ジュースを開発
JR東日本駅構内ジューススタンド「Honey's Bar」
全41店舗にて販売(2015年9月末で販売終了)

食品(海外)ー中国における子会社設立



上海悠綠那生物科技有限公司
(上海ユーグレナ)

2015年4月に
営業許可証を取得し、
6月より本格稼働開始



上海ユーグレナのオフィス



開所式(2015年7月22日)

会社概要

所在地	中華人民共和国 上海市
代表者	福本拓元(当社取締役、マーケティング部長)
事業内容	微細藻類ユーグレナ入り食品の販売
資本金	600 万元
決算期	12 月期
出資比率	当社 70% 統園國際有限公司 30%

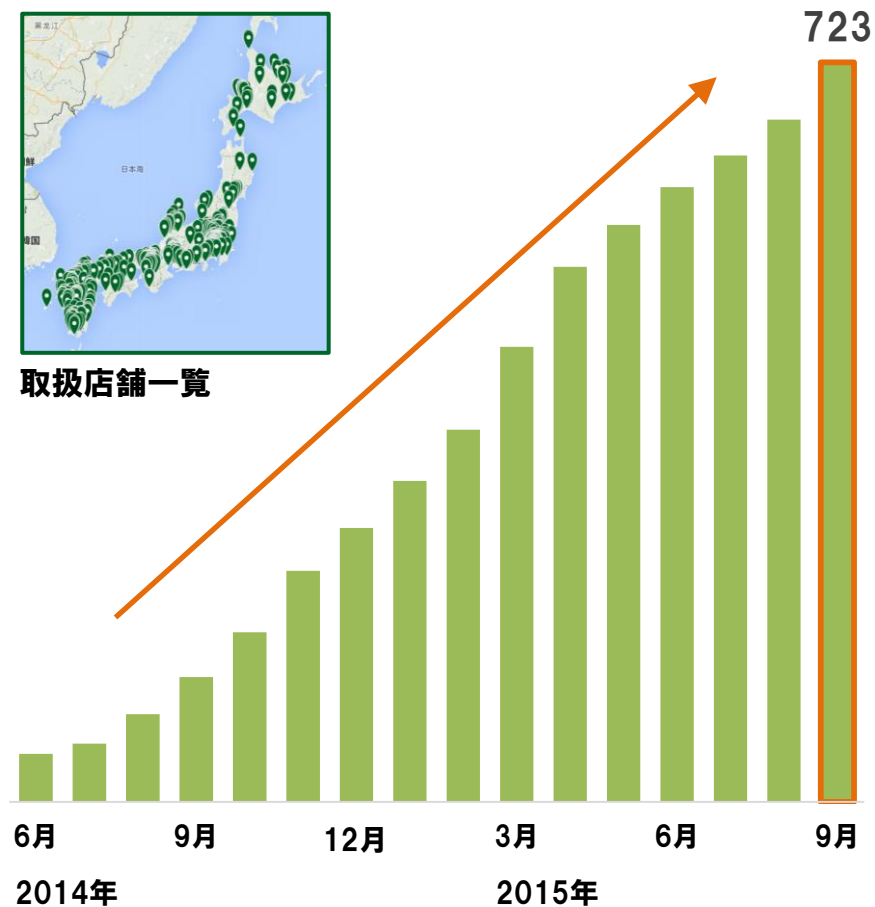
化粧品—自社ブランド「B.C.A.D.」の販路拡大

自社ブランド「B.C.A.D.」の取扱店は累計700店舗を突破

B.C.A.D.登録販売店舗数の推移



取扱店舗一覧



エステティックサロン ソシエにてOEM商品eugaを展開中



三越日本橋店においてユーグレナショップを展開中

2016年9月期における商品ラインアップの拡充

2015年9月期に発売した新商品の拡販を図るとともに、食品・化粧品の商品ラインアップ拡充を計画

食品
(流通)



2014/12/17に発売し、
徐々に取扱店舗が拡大
今期はユーグレナ素材の新
商品も計画中

OEM



カラハリスイカ素材を活用した
食品・化粧品の新商品を提案中

化粧品



2014/12/19にクレンジング、
2015/3/20にフェイスマスクを発売
今期も「B.C.A.D.」商品ラインアップの
更なる拡充を計画中

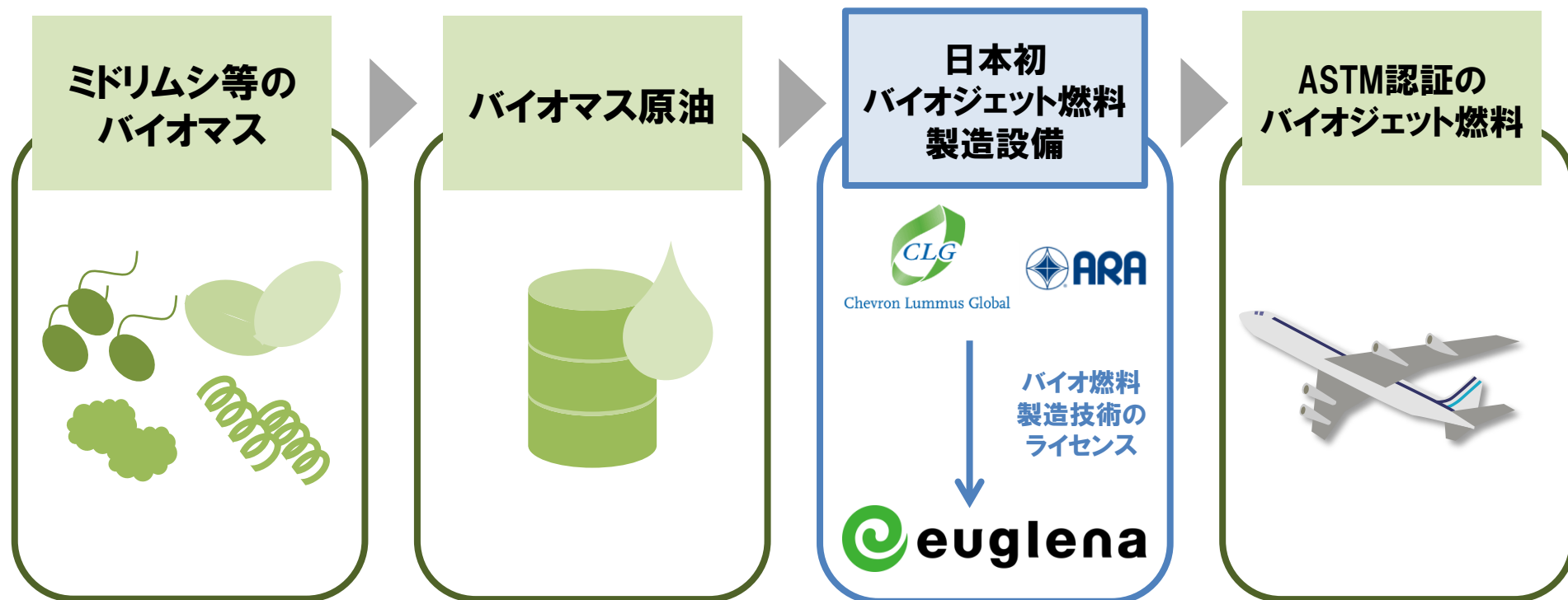


新たにメンズブランド「B.C.A.D. HOMME」を
立ち上げ、2015/11/25より販売開始
男性顧客層の開拓を目指す

将来の成長に向けた布石 研究開発進捗

バイオジェット燃料が製造されるまでのプロセス

バイオジェット燃料製造設備建設に向けて、Chevron Lummus Global社とライセンス契約及びエンジニアリング契約を締結(2015年5月29日)

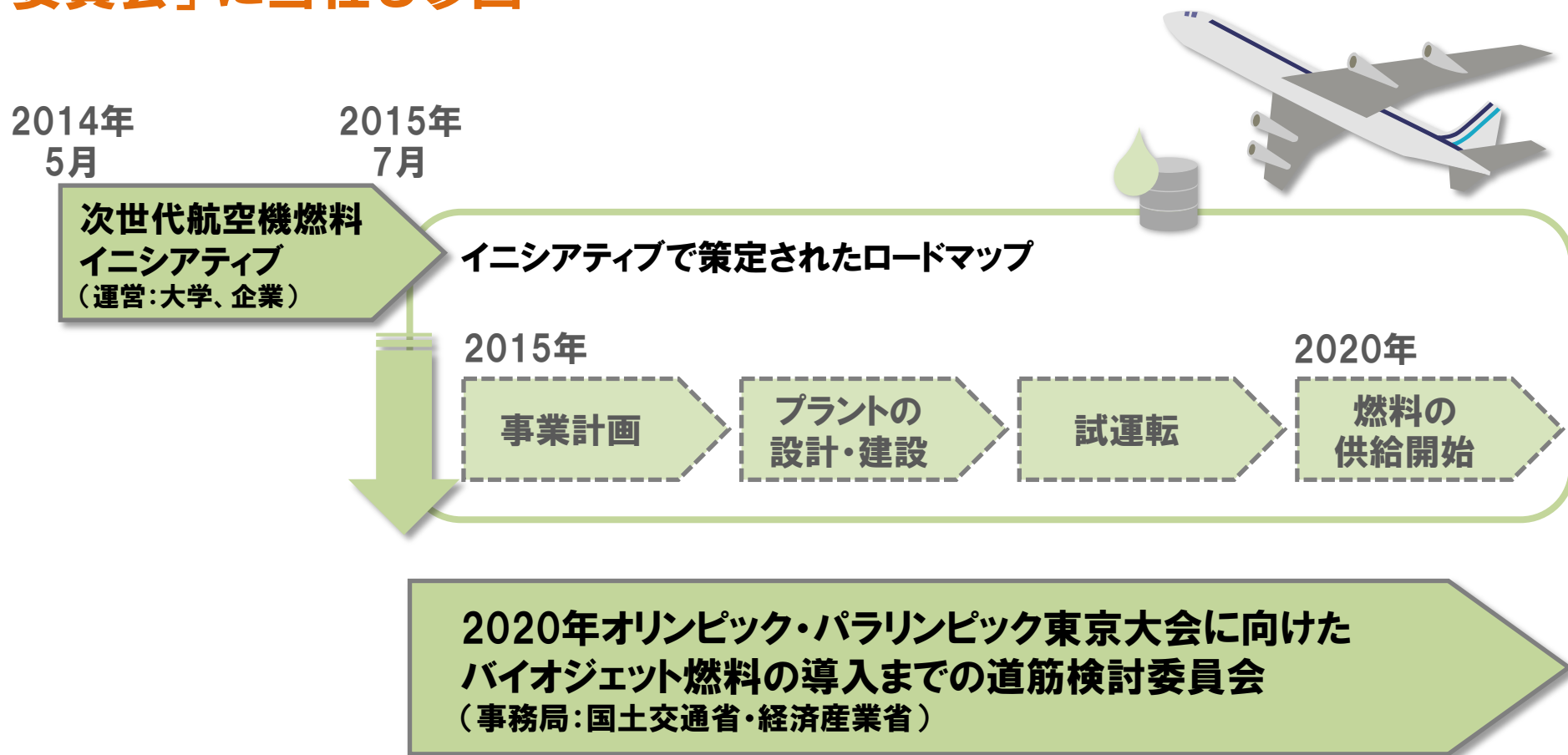


注: Chevron Lummus Global LLC は、米国の大手石油会社であるシェブロン社(Chevron U.S.A. Inc.)と米国のエンジニアリング・建設大手の CB&I 社(CB&I Technology Ventures, Inc.)が設立した合弁会社で、石油精製等に関する種々プロセス技術を保有する米国ライセンサー・エンジニアリング企業です

注: ARA 社(Applied Research Associates)は、米軍の要請により開発に成功した、高温水によるバイオ原油の精製技術および特許を保有する米国研究開発・エンジニアリング企業です

バイオジェット燃料導入に向けた官民学連携コンソーシアムへの参画

「次世代航空機燃料イニシアティブ」2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けたバイオジェット燃料の導入までの道筋検討委員会」に当社も参画



DeuSEL® プロジェクトの進捗

DeuSELバスの定期運行走行距離は3万kmを突破

ISUZU × euglena

共同
プロジェクト

DeuSEL
MIDORIMUSHI BIO FUEL

2014年7月1日に開始した
いすゞ藤沢工場～湘南台駅間
の定期運行(1日20往復)は
走行距離3万kmを突破

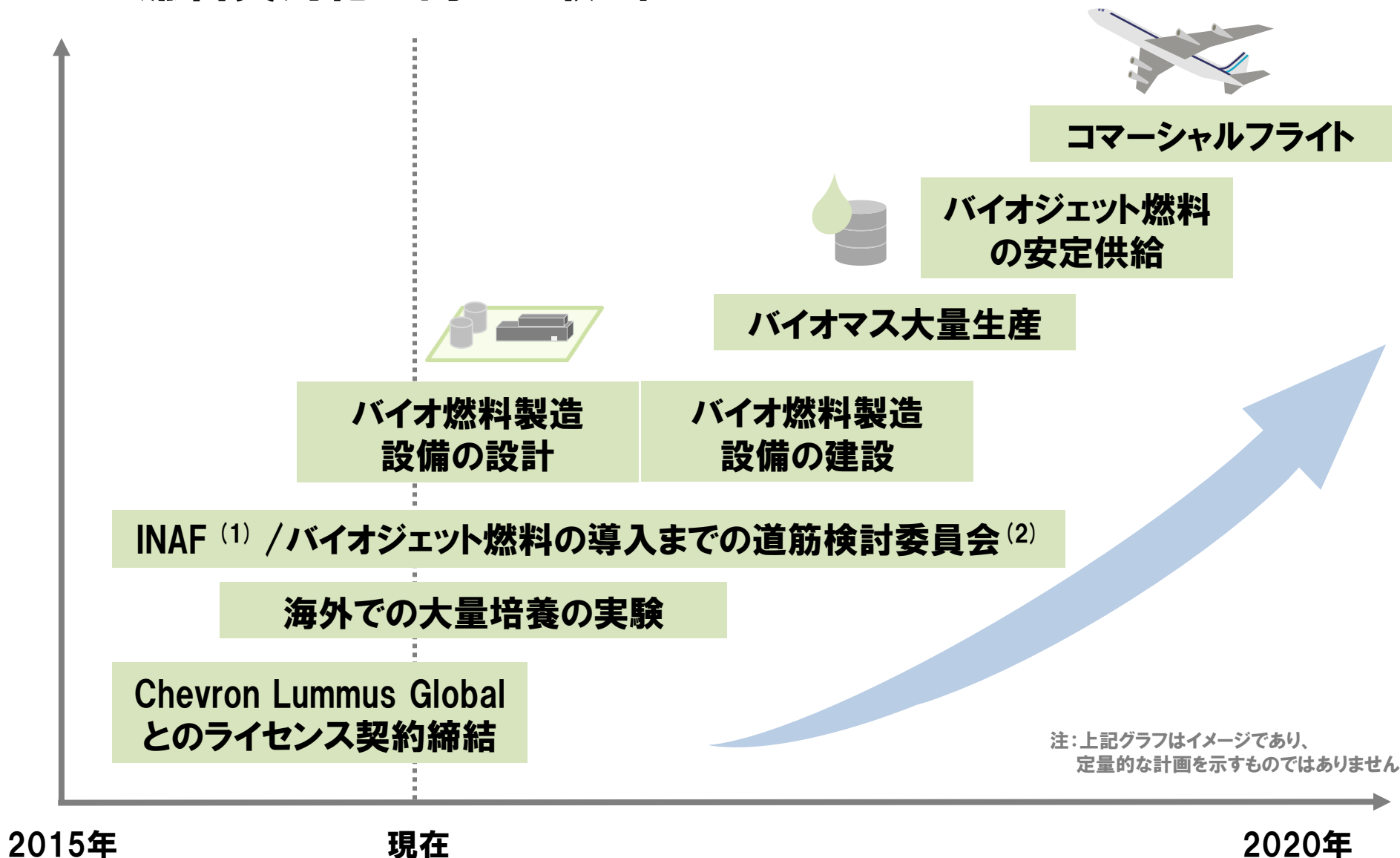


首都高開通イベントに出展



東京モーターフェス2014お台場に出展

バイオ燃料実用化に向けた取り組み

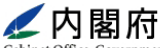
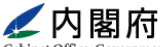





(1) 正式名称は「次世代航空機燃料イニシアティブ」

(2) 正式名称は「2020年オリンピック・パラリンピック東京大会に向けたバイオジェット燃料の導入までの道筋検討委員会」

政府支援と産学連携による研究開発

官民学パートナーシップによる共同研究に複数のテーマで参画

プログラム	当社が担当するテーマ	パートナー
 内閣府 Cabinet Office, Government of Japan 『革新的研究開発推進プログラム(ImPACT)』	先端光学技術による スーパーユグレナの選別	東京大学、京都大学、大阪大学、 千葉大学、慶応義塾大学、 カリフォルニア大学ロサンゼルス校、 コロンビア大学
 内閣府 Cabinet Office, Government of Japan 『戦略的イノベーション創造プログラム(SIP)』	藻類からの高度不飽和脂肪酸等 の有用物質生産	独立行政法人水産総合研究センター、 国立環境研究所、東京大学、 筑波大学、(株)ヒガシマル
 独立行政法人 科学技術振興機構 『戦略的創造研究推進事業(CREST)』	形質転換ユグレナによる バイオ燃料生産基盤技術の開発	島根大学、近畿大学 カリフォルニア大学サンディエゴ校(※)
 独立行政法人 新エネルギー・産業技術総合開発機構 『国際関連事業／国際エネルギー消費 効率化等技術・システム実証事業』	石油随伴水を活用した 微細藻類生産実証事業	清水建設(株)
 国土交通省 Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism 『下水道革新的技術実証事業(B-DASH)』	下水中の窒素、リンの回収とバイオ ガス中のCO ₂ 分離・回収を微細藻類 培養に利用する技術実証	(株)東芝、日環特殊(株)、 (株)日水コン、日本下水道事業団、 佐賀市共同研究体

(※) カリフォルニア大学サンディエゴ校はCRESTのメンバーではありませんが、本テーマにおいて当社は同校の協力を得ながら実験を行っております

その他事業の進捗

ユーグレナ竹富エビ養殖

今期より当社連結収益への寄与を見込む他、将来の飼料事業展開に向けた研究開発にも着手予定

会社概要 ユーグレナ竹富エビ養殖

名称: ユーグレナ竹富エビ養殖(株)※

所在地: 沖縄県八重山郡

事業内容: クルマエビの養殖販売
約7万㎡ (東京ドームの1.5倍) の
陸上養殖プールを保有

業績概要: (2015年6月期)	売上高	280	百万円
	経常利益	90	百万円
	当期純利益	51	百万円

株式取得日: 2015年9月30日



↑ 竹富島の養殖プール ↓



ウイルスフリー種苗で育成したクルマエビ →

※ 2015年11月1日付で竹富エビ養殖(株)より名称変更

ユーグレナGENKIプログラム

今年度は約5,000人の子供達へのクッキー配布を計画

現地でのクッキー事業準備調査がJICA「BOPビジネス連携促進」に採択



実施概要

配布物:	ミドリムシ入りクッキー (1食分=6枚入り1袋、約230kcal/約50g)
実施期間:	2014年4月より、休日を除く週6日 (1日1食、期限無し)
実施場所:	ダッカ(バングラデシュの首都)のNGOが運営する小学校 ➢ 2014年度実績: 11校 ➢ 2015年10月時点: 24校
対象者/ 配布数:	➢ 2014年度実績: 約2,500人/日 ➢ 2015年10月時点: 約5,000人/日
仕組み:	当社及び協賛企業対象商品1個につき 10円を寄付
専用HP:	http://www.euglena.jp/genki_program/



2014年第一回協力準備調査
(BOPビジネス連携促進)

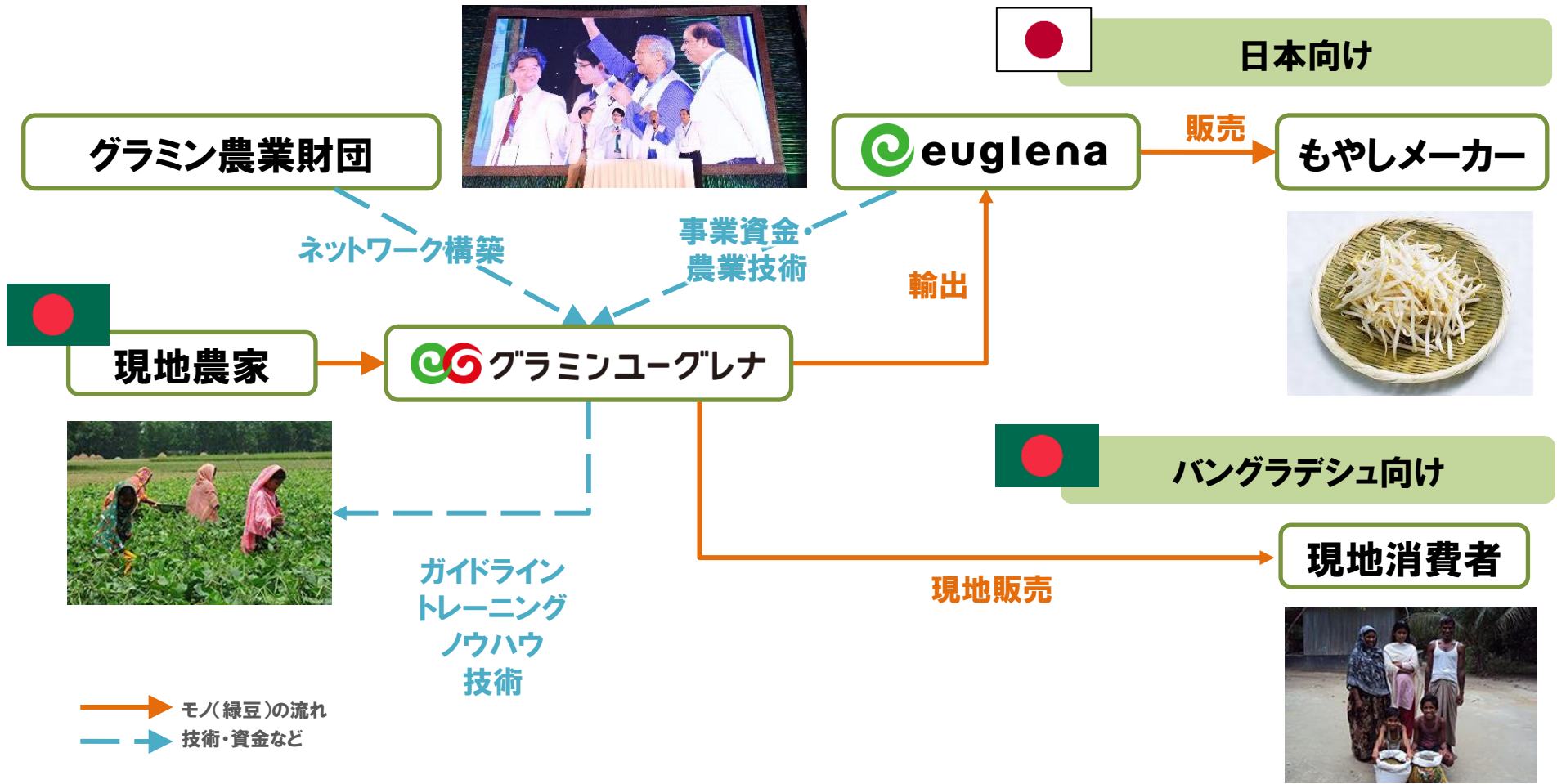
実施概要

事業名:	ユーグレナ・クッキー事業準備調査
実施地:	バングラデシュ人民共和国
テーマ:	貧困層層(BOP)・中所得層(MOP)を対象としたユーグレナ・クッキー等のユーグレナ入り食品の商業化の可能性の調査
調査内容:	・クッキー市場規模と将来性の調査 ・BOP、MOP層の各層ニーズ調査 ・商品開発と販売テスト
実施期間:	2015年4月から 2017年3月までの2年間



グラミンユーグレナ(Bangladeshにおける緑豆プロジェクト)

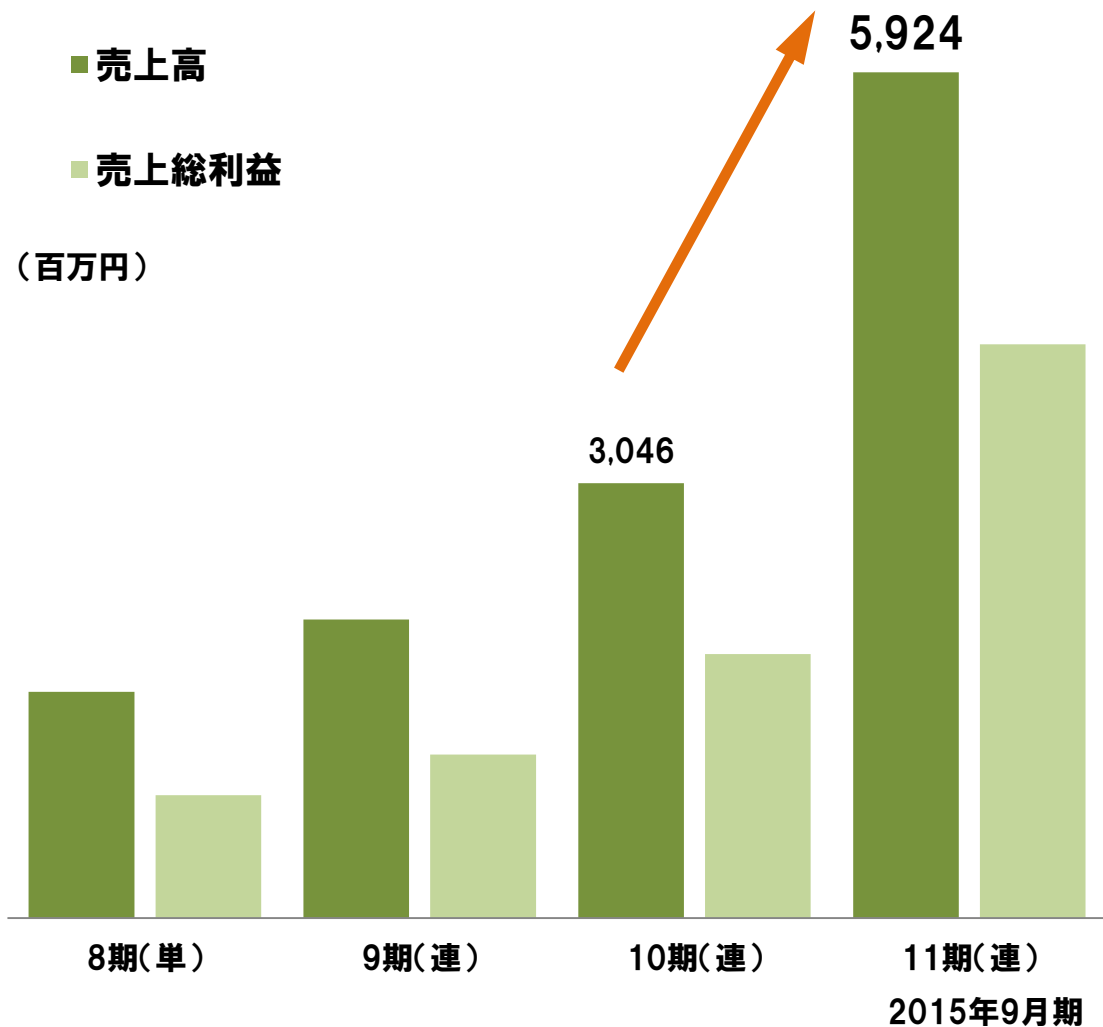
2015年4月に日本のもやしメーカー向けの販売を実施
今期も順次販売していく予定で、当社連結収益に寄与する見込み



注: 「グラミンユーグレナ」は Bangladesh 人初のノーベル平和賞に輝いたムハマド・ユヌス博士率いるグラミングループと、「人と地球を健康にする」ことを理念に持つユーグレナ社の合併企業の通称です

2015年9月期 通期決算概要

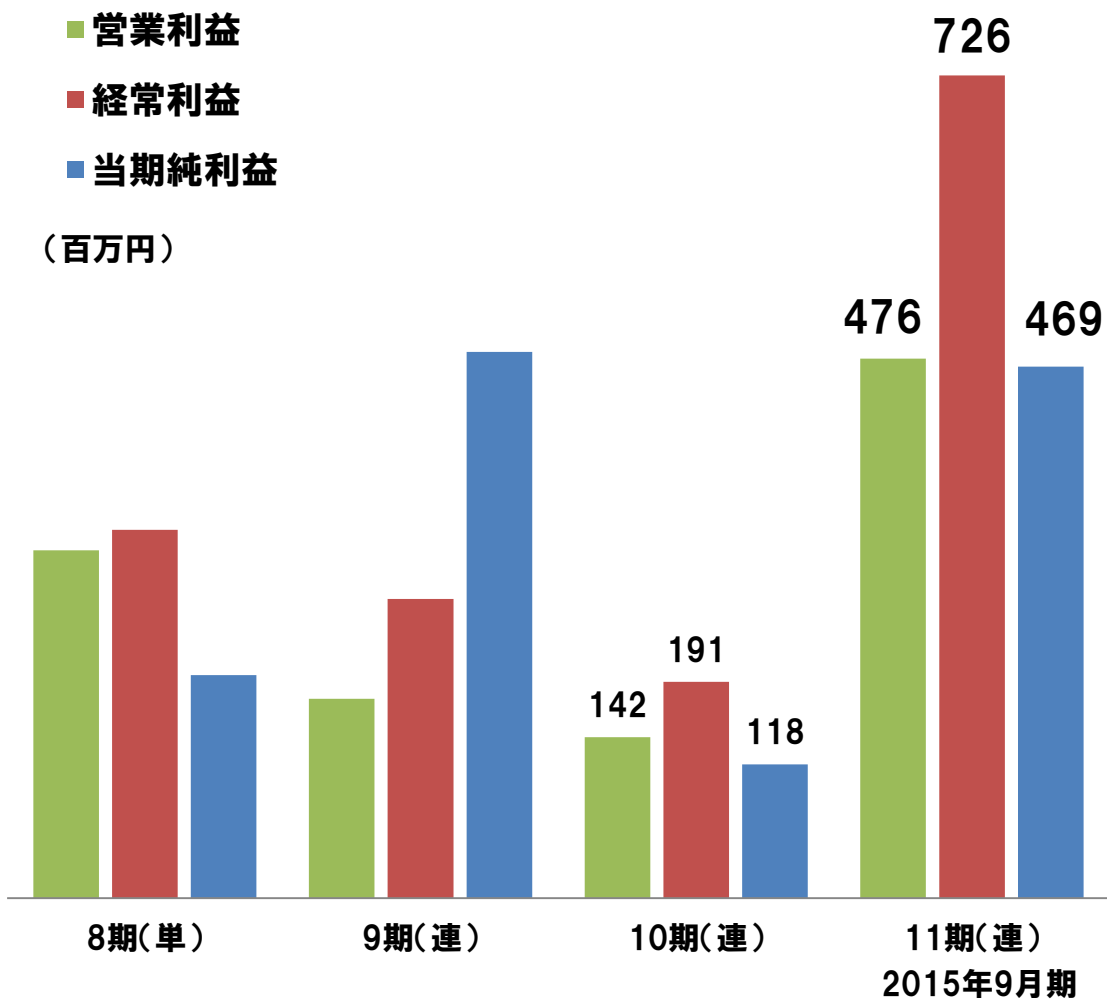
業績推移—売上高、売上総利益



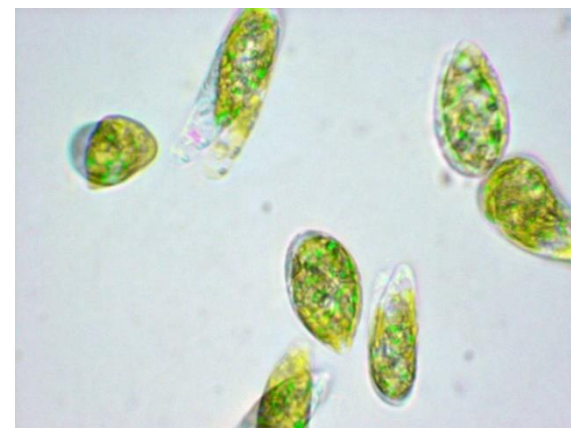
売上高は
前年比 **2倍**
を達成



業績推移—営業利益、経常利益、当期純利益



営業利益・経常利益は
過去最高益
を達成



2016年9月期(第12期)の連結業績予想

今期売上はほぼ**倍増**

成長投資を積極的に実施しつつ、利益ベースでも1-2割増を見込む

	2015年9月期 実績	2016年9月期 業績予想	対前期 増減率
売上高	<u>5,924</u> 百万円	<u>11,086</u> 百万円	87.1%
営業利益	476百万円	601百万円	26.3%
経常利益	726百万円	826百万円	13.8%
当期純利益	469百万円	540百万円	15.0%